

北東北ブロック研究発表会および南東北ブロック研究発表会の開催報告

1. 東北支部における研究発表会の概要

東北支部では、北東北ブロック(主に青森・岩手・秋田)と南東北ブロック(主に宮城・山形・福島・新潟)に分かれて実施する研究発表会と、ブロック合同の研究発表会を隔年で開催しています。今年は去る3月7日(土)に紫波町情報交流館(岩手県紫波町)を会場に北東北ブロック研究発表会を、3月8日(日)にコラッセふくしま(福島市)を会場に南東北ブロック研究発表会を開催しました。

2. 北東北ブロック研究発表会

北東北ブロック研究発表会には、6機関から12編の応募があり、学部生、大学院生、研究者に加え、自治体職員による発表もありました。発表は下記の3セッションに分け、発表7分+質疑5分で進行しました(括弧内はセッション司会)。

- 参加・地域活動など [河村信治(八戸高専)]
- 景観・交通など [小地沢将之(仙台高専)]
- 都市機能・復興 [稲川敬介(秋田県立大学)]

北東北ブロックでは住民参加の方法論、伝建地区の管理の課題などに関する発表が複数あったほか、除染土壌の仮置き場の選定や復興事業の進捗評価など、東日本大震災の復興期を題材とした研究発表も目立ちました。

会場となった情報交流館は、公民連携によって紫波中央駅前の一体的な施設整備を実現した「オガールプロジェクト」(10.7ha)の一角のオガールプラザ内にあります。そこで、研究発表会に先立ち、このプロジェクトの仕掛け人である岡崎正信氏(オガールプラザ株式会社代表取締役)に、「オガールの

魅力」と題してご講演いただきました。岡崎氏は、住民サービスを維持するためには「稼ぐインフラ」の整備が必要であることを指摘し、一連のプロジェクトの実施に際しても減価償却期間の短い木造を選択したこと、市場にミートできる専門性を備えた施設整備としてバレーボール専用体育館を整備したことなどについて紹介しました。

3. 南東北ブロック研究発表会

南東北ブロック研究発表会には、5機関から21編の応募があり、学部生、大学院生、高専生による発表がありました。発表10分+質疑4分とし、下記の3セッションに分けて進行しました(括弧内はセッション司会)。

- 公園制度など [古藤浩(東北芸術工科大学)]
[川崎興太(福島大学)]
- 区域区分など [土方吉雄(日本大学)]
- 居住・都市再生など [古藤浩(前掲)]

南東北ブロックでは、国立公園などの公園制度に関する発表が多く、自然公園内での風力発電施設の許可を巡る発表では、「環境アセスメントがあるにもかかわらず、自然公園法によって許可判断を行っているのは妥当なのか」などの質疑もあり、充実した議論が行われました。

このほかにも、被災地枠の環境未来都市構想の取組み状況に関する研究や福島県内における復興状況の調査など、震災および原発事故によって被災した東北地方らしいテーマを扱った研究もみられました。

南東北ブロックでも研究発表会との併催で講演会を実施し、中村伸也氏(復興庁福島復興局次長)には「福島の復興と課題」と題してご講演いただきました。中村氏は原発事故被災地特有の課題に対応する制度の整備状況などについて解説しました。

各ブロックの研究発表会後には懇親会が開かれました。地元自治体職員らの参加もあり、学生たちにとっては各地の実情を知ることができる絶好の機会となりました。

なお発表題目については、東北支部のWebサイト「都市計画 in 東北につぼん」(<http://www.tohokucp.sakura.ne.jp/>)をご覧ください。

(文責：小地沢将之/国立高専機構仙台高等専門学校)



写真 北東北ブロック研究発表会における岡崎氏による講演